



# 広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2017. 5. 25  
第 69 号

## 今年度の聖句

「そこではもはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。

あなた方は皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」 ガラテヤの信徒への手紙 3章 28節

## 海を越え、時の流れをこえて、脈々と生き続ける女学院スピリット！

合同メソジスト教会牧師 三宅ストーナー展子 (高22)

管理栄養海外研修のため、市川知美先生の引率で、今年も6名の広島女学院大学の学生さんたちが1週間程ハワイに滞在されました。様々な人達との出会いを通して良き学びの機会が与えられたように思います。希望に輝く彼女たちの目に私自身も励まされ、そんな真摯でエネルギー溢れる彼女たちは本当に美しいと思いました。

私も女学院大学卒業後43年目となり、また留学後、はや41年余りの歳月をアメリカで過ごしたこととなります。人生は出会いと選び取りで決まるといいますが、私も貴重な多くの方々との出会いがありました。中でも女学院の同窓生達との出会いはかけがえのないものでした。

1981年、牧師になって初めて赴任した教会はロサンゼルスの日系人教会でした。アメリカ生活6年目の私は、まだまだ文化ショックも冷めやらぬ、又、英語もおぼつかず、不安と焦燥にかられた牧師1年生でした。小さな教会であったため経済的にも大変でしたが、ロス支部の同窓生達が物心共に黙々と援助の手を差し伸べてくださった事は今でも忘れることができません。初対面の方ばかりでしたが、娘や妹のように、この未熟な牧師のために祈り、支え、育ててくださいました。私はキリストの愛を皆さんを通して知りました。今思い出しても目頭が熱くなります。

ところで、去年の7月、カリフォルニア州、コロラド州、ハワイ州での延べ35年間の合同メソジスト教会での牧師生活を定年退職しました。この間、日本の27倍も広いアメリカの行く先々で、同窓生方との出会いがあった事は驚くべきことです。ほとんどの皆さんは職業を持たれ、私より歳が10も20も上の先輩方でした。

アメリカも30余年前は今以上に男女差別や人種偏見

が顕著で、リーダーシップのポジションに立とうとする外国人女性が受ける風当たりは強いものでした。残念ながら、白人男性で牛耳られていた牧師社会も例外ではなく、私自身も男女差別と人種偏見の中で挫折しそうなこともありました。そんな時、先輩同窓生方が、職場で自ら葛藤しながらも、“我らは神と共に働く者なり”との女学院の建学精神を身をもって生き抜いておられる、その正しい信仰の姿から私は大きな励ましと勇気を戴きました。

神と共に働く人生の基盤は何でしょうか？神から愛されていることを知ること、無条件に愛されていることを知ることでしょうか。周りの人達の評価や社会の偏見にとらわれず、神が創られた自分を見出してゆくこと。そして、その神が私たちを、共に働く者として、無限の可能性を与えてこの世に送ってくださる—言ってみれば、信仰的に成長するという事は、ますます自分らしく生きてゆくという事。神を信じるということは神の創って下さった自分自身を慈しみ信頼しながら与えられた可能性を社会のために活かしてゆくということ。

本当に私は女学院の同窓生の皆さん方から多くの導きを受け、支えられ、今日に至っているということを只々、神に感謝しています。(写真:左から5人目、女学院大生と)



東京支部主催 2017 あやめの会

## ～ 両国ちゃんこ & 江戸東京博物館見学 ～

昨年度のあやめの会は、学士会館での昼食と皇居東御苑散策をお楽しみ頂きましたが、今年はがらりと雰囲気を変え、下町情緒たっぷりに「両国ちゃんこ鍋」と「江戸東京博物館常設展示見学」のコラボを企画しました。

ランチを頂くのは「ちゃんこ霧島両国本店」。両国でも1、2を争う人気店です。ゆったりとした掘りごたつ式の個室をご用意いたしますので、陸奥部屋直伝の本格ちゃんこを思う存分に堪能致しましょう。

その後、江戸東京博物館に場所を移し、ガイドボランティアの方の説明を聞きながら、常設展示を約一時間半見学して頂きます。江戸の町並みを再現したジオラマは一見の価値あり！！是非この機会にタイムスリップしませんか？

博物館一階の特別展示室では「坂本龍馬展」も開催されています。また両国周辺は、国技館・回向院・旧安田庭園・吉良邸跡など見どころも沢山。そちらへも足を運ばれてはいかがでしょうか？

2017年 6月9日 (金)

**集合：11時20分 ちゃんこ霧島 両国本店** (店に直接お越し下さい) 下記地図参照

東京都墨田区両国 2-13-7 ☎050-3477-0984

J R 総武線 両国駅西口徒歩1分、 都営大江戸線 両国駅 A4 出口徒歩6分

**食事代金：3500円** (個室料金含む)

※4～5人で一つの大鍋になります。先着50名まで。

**※ 江戸東京博物館見学のための参加も歓迎！**

その場合は13時30分 三階 チケット売り場横集合

**<江戸東京博物館常設展観覧料>**

一般 600円

65歳以上 300円 (年齢を証明する健康保険証など必ずお持ち下さい)



申込み・問合せ <sup>しげの</sup>(滋野)  
☎03-6760-6322  
☎090-1766-4342  
shigetaro@jcom.home.ne.jp

**6月4日(日)締め切り**

ちゃんこ霧島



# 2017年度 全国代表者会議 報告

4月21日（金）、ゲーンズホール別棟チャペルで同窓会全国代表者会議が開催されました。全国からの代表と本部幹事、約40名が集まり、関東ブロックからはブロック長 坂下 恵（杉田/文英 1）と千葉支部長 村中陽子（砂川/高校 27、文英 9）が出席しました。



開会に当たり大矢みどり会長から、大学は湊晶子院長・学長のご尽力により厳しい状況を脱しつつあること、2018年度から新しい改組が施行されること、次に繋げて行くために同窓生として130周年記念募金に協力しましょうとお話がありました。

礼拝では小田部三恵子牧師から「たえず新たに」と題したメッセージで、「年を取ることは前に向かって行く歩みである」と教えて頂きました。

昨年度の報告と今年度の計画が承認された後、各ブロックの活動報告と意見交換を行い、校地内の原爆死没者慰霊碑の前で祈りを捧げました。

## ホームカミングデー 報告

翌4月22日（土）には、リーガロイヤルホテルにてホームカミングデーが催されました。今年のテーマは「今、私たちにできること」。

礼拝では湊晶子院長・学長から「私が変われば世界が変わる」と題して「まず自分が神に繋がり、隣人を愛せる人に」と教えて頂きました。



大矢会長の開会のことばに続き、中川日出男理事長は、

学校の現状について、「維持会問題は現在も係争中だが、体制を改正して、国からの補助金は回復し、寄付金の税額控除団体としても再認可された。大学は来年度から改組が実施される。今は女学院が今後100年続くための改革中で、設備の整備のための費用が必要。寄付金は学校の会計に直接入るので安心して130周年記念募金にご協力頂きたい」と話されました。



そして、星野晴夫校長は「女学院とのこれまでの歩み、そしてこれから」と題して、お母様が信仰の厚い方であったエピソード、そして本当の教育は聖書なしにはあり得ない、

女学院の平和教育は命の教育、隣人愛を土台としたものであると語られました。

“グルッポ・マンドリナータ・ミドリ”の6名の

同窓生による演奏では4種類の弦楽器の繊細なハーモニーが心地よく響きわたり、引き続き、昭和初期の音楽教師のバルチコフ先生ご愛用のバイオリンによる校歌の演奏を聴きました。

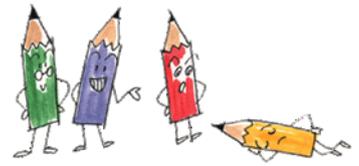


高田憲治園長の乾杯の際には「ゲーンズ幼稚園では目に見えない能力を育てることをモットーとしている」と熱を込めて話され、会食に入りました。

同窓生の歌「どんなに時が流れても」と讃美歌、校歌を全員で歌い、湊先生にペスタロッシー教育賞受賞のお祝いの花束を贈呈し、松浦房枝実行委員長（高校17・大英17）の挨拶をもってお開きとなりました。350名近い出席者で盛会でした。

（坂下）





## 「異文化への入口」

さちこ  
難波祐子 (高校 42 回)

私は、1986年に高校から女学院に入学したのですが、いろいろな意味で高校時代に経験したことが、今の自分の人生に大きな影響を与えていると思います。中でも一番大きなターニングポイントは、父の仕事の関係で高校2年生の時に1987年の夏から休学して、一家で渡英し、バーミンガムに8ヶ月ほど留学したことでした。初めての海外で、何かと不安な中で、当時、女学院で英会話を教えてくださっていたアメリカ人のジェリー岡田先生には、渡英前、帰国後の両方に渡って授業時間外にもいろいろとアドバイスして頂き、大変お世話になりました。帰国後は、入学時よりも一年下の学年に戻ったので、同級生は二学年にまたがっていますが、当時から留学が盛んな女学院で、同じような境遇の帰国組が私を含めて16名いたので、あまり違和感なくクラスに溶け込めました。また部活は音楽部に所属しており、先後輩の繋がりも良い部だったので、帰国後も同じ部で活動を続けました。

高校卒業後は、女学院から広瀬ハマコ奨学金を頂き、ロンドンの大学で社会人類学を学びました。卒業論文はインドネシアのバリ舞踊について現地でのフィールドワークを基に研究して執筆しました。一方で、学生時代にロンドンで観たある現代美術の展覧会に影響を受け、大学院は、現代美術のキュレーター（展覧会を企画する仕事）を養成する修士に進むことを決めました。当時は、そういった分野を学べるコースが日本にはなかったので、ロンドンの大学院で学びたいと思いましたが、留学生の学費は大変高額だったこともあり、学費を捻出するために三年間広島に戻って通訳や翻訳などのアルバイトをしました。大学院在学中に、オーストラリアの美術館で2ヶ月、修了後にニューヨークの美術館で約半年間インターンとして研修を受けました。日本に帰国後は、すぐにも美術館で働きたかったのですが、現代美術専門

の学芸員の募集は、なかなかなくて、あっても大変狭き門でしたので、まずは美術大学の助手や講師の仕事に就きながら、自分の企画を温めていました。とは言え、駆け出しのフリーランスのキュレーターが、日本で展覧会をするのは、社会的信用もゼロなので至難の業でした。いろいろ模索していた中で、縁あって、タイのバンコクで展覧会ができることになり、その間、子どもを授かったりして、展覧会準備と本番の二度に渡って子連れでタイに行きました。



Photo: Kenichi Aikawa

2006年からは、東京都現代美術館で学芸員として五年間勤務し、国内外のアーティストとの仕事を通して、さまざまな展覧会に関わりました。美術館での仕事は、子どもがまだ小さかったこともあり、子育てと仕事の両立には悩まされましたが、家族や周囲のサポートがあり、なんとか続けることができました。2010年に企画した「こどものにわ」という展覧会では、赤ちゃんから大人まで楽しめる展覧会として、二ヶ月の会期で8万3000人以上の方々に来て頂くことができました。この展覧会は、子育てをしていなかったら発想できなかった展覧会で、準備段階から我が子を実験台にしつつ、一緒に作り上げていくという貴重な機会を得ました。



遠藤幹子《おうえんやま》2010 と KOSUGE1-16 《AC-MOT》  
2006/2010、東京都現代美術館「こどものにわ」展(2010)に  
おける展示風景 Photo: Kenji Morita

2016年からは、国際交流基金の文化事業部というところで、古代から現代に至る日本の美術を海外に紹介する展覧会を担当しています。また日本の若手キュレーターやアーティストが、海外の美術関係者と共同作業などを通してネットワークを拡げることができるような交流事業も担当しています。

「環境が人間を作る」と言いますが、私のこれまでの半生を振り返ってみると、やはり女学院という国際色豊かな学校で学び、その高校時代にイギリスに行けたことは、非常に大きな糧となっています。女学院を卒業して何年か経ったある日、学校に顔を出した際に、岡田先生が急逝なされたことを遅まきながら知り、大変ショックを受けましたが、先生に親身になって英語の魅力や英語圏の

文化について教えて頂いたことは、今でも忘れられません。私にとっては、先生との出会いが最初の異文化への入り口でした。また高校時代に日本という国について、外から見ることができ、大学時代に人類学的な観点からさまざまな国の文化をみるための物差しを得たことは、今の仕事にも通じる貴重な経験となっています。今でこそグローバルな教育環境が整っている日本ですが、女学院の先進的な教育環境の中で高校時代を過ごせたことは、非常に幸運でした。最近では、留学をしたがらない若い世代が増えていると聞きますが、学生時代こそ、一度日本の外に出てさまざまな文化的背景を持った人々と接してみることが、将来、どのような仕事に就くにせよ、必ず何らかの役に立つことと思います。そうしたグローバルな視点を持つことを大切に育んできた女学院の教育に感謝すると共に、同窓生として、陰ながらこれからも女学院のことを応援していきたいと思っています。



『現代美術キュレーターという仕事』

表紙（大巻伸嗣  
《Echoes-INFINITY》2010、  
東京都現代美術館「こども  
のにわ」展(2010)における  
展示風景

Photo: Kenji Morita

エンパワーメントセンター & 広島女学院同窓会 共催

## 湊晶子院長・学長 聖書研究会のご案内

聖書は「生きる希望」についてなんと語っているのでしょうか

～創世記から黙示録まで～

日程（全5回）

①2017年6月24日、②7月29日、③10月14日、④11月25日、⑤2018年2月24日

いずれも土曜日、13:30～15:00、会場は広島女学院大学 人文館 303 教室

全回出席できなくても内容を追えるように湊先生がテキストを作成して下さいます。

<問い合わせ・申込み> 広島女学院同窓会 TEL/FAX: 082-221-1059

## 2016年度 広島女学院同窓会東京支部 会計報告

2016年4月1日～2017年3月31日

収 入			支 出		
費 目	金 額	適 要	費 目	金 額	適 要
前年度繰越金	502,654		支部ニュース費	365,231	印刷代、送料、封筒代
支部会費	626,000		役員会費	95,920	役員会会場費、交通費
受取利息	35		支部活動費	22,762	東御苑散策、クリスマス会
寄付	12,000		通信事務費	40,234	支部ニュース以外の通信費
			関東ブロック分担金	58,989	夏雲の集い、記念募金他
			次年度繰越金	557,553	
合 計	1,140,689		合計	1,140,689	

上記の通り会計報告をいたします。

2017年3月31日 会計 滋野 順子

監査の結果、収支報告に相違ありません。

2017年4月4日 会計監査 小池 明子

### 2017年度 東京支部役員

支部長	瀧口京子 (白井) 高23、文英5
副支部長	滋野順子 (前埜) 高19
副支部長	桜井悦子 (瀬川) 高23、文英5
書 記	佐藤美代子 (池田) 高22、文日4
会 計	松岡理乃 (木沢) 高30
宗教委員	千代崎満子 (白根) 高33、文英15
編集長・関東ブロック長	坂下 恵 (杉田) 文英1
編集委員	小林悦子 (土生) 高46
〃	平田香里 (高原) 高47
〃	野口裕美 (伊藤) 高44、文英26
実行委員	小池明子 (田辺) 高14
〃	西山朋子 (佐々木) 高22、文英4
〃	木村貴子 (阿波) 高32、文英15
〃	氏原歌子 (佐伯) 高32、文英14
〃	藤居阿紀子 (森) 高25
会計監査	重本ゆり (重本) 文英8

### 今年度の企画

- \* 支部ニュース発行  
69号(5月)、70号(11月)
- \* あやめの会 (6月9日・金)  
両国 ちゃんこ霧島  
江戸東京博物館見学
- \* 夏雲の集い / 関東ブロック主催  
(7月8日・土/銀座教会)  
原爆死没者追悼礼拝  
「葉っぱのフレディー」、原爆詩  
朗読(山本學氏)  
ギター(兼古隆雄氏)
- \* クリスマス会  
(12月)



# クリスマス礼拝に参加して

2016年12月10日、恒例のクリスマス礼拝が武蔵境にある池の上キリスト教会で行われました。

八芒星型の天井から自然光が注ぐ礼拝堂で、内海彩花さんのパイプオルガン奏楽から始まり、千代崎備道牧師によるイエス様ご生誕の場面に関する説教を拝聴しました。

礼拝後には広い地下ホールで懇親会が催され、制服や校則のなかでいかに個性を發揮するかを競った記憶は、世代を超えて共通する「女学院らしさだね」と話に花が咲きました。



小西 恵さん（高校4回・エッセイスト）はご著書「みいちゃんの見た満洲の最期」に込めた思いを、廣本萬里子さん（高校19回・メイクアップアーティスト）は日本人の骨格に適するメイク法やスキンケア法をお話しくれました。

当日歌った讃美歌119番は数少ない日本人の手によるもので、作曲者鳥居忠五郎さんは流川教会に在籍されていたそうです。

短い時間ではありましたが、讃美歌の響きで満ちた懐かしい女学院のクリスマスを楽しみました。参加者は27名でした。

野口裕美（伊藤／高44・文学部26）

## 編集後記

- \* 広島女学院創立130周年記念募金へのご理解、ご協力をお願いいたします。
- \* 6/9(金)のあやめの会、7/8(土)の夏雲の集い、どちらも申込が必要です。お忘れなく。
- \* 東京支部役員会は毎月 第2火曜日 10時～12時（2、8月休み）銀座教会福音会センターにて。今年度から役員に重本ゆりさん（文英8）、氏原歌子さん（佐伯/高32・文英14）、木村貴子さん（阿波/高32・文英15）が加わって下さいました。新鮮なアイデアに期待！
- \* 「朗読×落語～まいど会」にて白井京子さんによる短編「武士の料理帖」の朗読。6月18日(日)、18時から、渋谷の川中美幸さんのお好み焼きのお店で。1ドリンク付きで4,000円。お申し込みは090-3200-5551（白井）まで。

### お知らせ

今号より、封筒に記載の瀧口支部長の住所を港区六本木に変更し、それに伴い、支部長名は、その住所に登録されている旧姓の白井京子とさせていただきます。

## 支部会費納入のお願い

支部活動は皆様からの会費で成り立っています。**2017年度の会費(2,000円)の納入をお願いいたします。**同封の振替用紙または銀行振込をご利用下さい。

三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店  
普通預金 0473771  
広島女学院同窓会東京支部

封筒の宛名シールに「\*」が付いている方は今年度の会費を納入済みです。手違いで振替用紙が入っていた際はご容赦下さい。

80歳以上の方は会費免除ですが、お気持ちがありましたら、お願いいたします。

同窓の若きにあわせ聖夜かな  
多言語できよしこの夜を二十年

小西 恵

# 夏雲の集い 2017

関東ブロック主催

～原爆死没者追悼礼拝～

関東ブロックでは、母校での350名の犠牲者を追悼し平和に向き合う集会として、故山本（秦）知子先生の提唱による「夏雲の集い」を1988年から毎年開催してまいりました。今年は追悼礼拝に続き、俳優の山本學氏（山本知子先生のご夫君）とギタリストの兼古隆雄先生のご厚意による朗読とギターとの共演をお聴き頂けることになりました。お誘いあわせの上、6月24日（土）までにお申し込みください。同窓生以外の方もお誘い頂けます。人数をご連絡ください。（但し茶話会は除く）

**7月8日（土）**

**13時30分～16時30分（受付開始13時）**

**日本基督教団 銀座教会 大礼拝堂**

東京都中央区銀座4丁目2番1号

JR有楽町駅中央口下車 徒歩5分、地下鉄銀座駅C6またはC8出口よりすぐ

- 13:30～ 礼拝・説教（高橋潤 牧師）
- 14:00～ レオ・バスカーリア作  
「葉っぱのフレディ ～いのちの旅～」  
山本學氏（朗読）、兼古隆雄氏（ギター）
- 15:00～ 原爆詩朗読
- 15:30～ 茶話会（5階 ぶどう）

**申込締切：6月24日（土）**

申込先：滋野（しげの）

電話 03-6760-6322、携帯 090-1766-4342

メール shigetaro@jcom.home.ne.jp



<ギター：兼古隆雄氏 プロフィール>

河面一良氏、大塚房喜氏、小原安正氏、菅野浩和氏、N. イェペス、R. S. ・デ・ラ・マーサ、J・トマス、A. ポンセに師事。1966年、第9回ギター・コンクール（現 東京国際ギター・コンクール）で1位。翌年の東京文化会館でのデビューリサイタルを皮切りに演奏活動に入り、第一線の地位を固める。テレビ出演、国内外での演奏、録音、著作、後進の指導の他、東京国際コンクール審査員、日本ギター連盟理事なども務め、俳優 山本學氏の朗読との共演も回を重ねている。